

令和7年度 技術情報第4号
かんきつ カイガラムシ類

令和7年9月25日
静岡県病虫害防除所長

**近年、かんきつでカイガラムシ類の発生が増加しています。
園地での発生状況に注意してください。**

1 病害虫名

カイガラムシ類（マルカイガラムシ類、ヤノネカイガラムシ、イセリヤカイガラムシ、ロウムシ類、コナカイガラムシ類）（図1～6）

2 対象作物 かんきつ（温州みかん、中晩柑類）

3 発生状況

- （1）県病虫害防除所による令和7年9月上中旬の温州みかん巡回調査では、ナシマルカイガラムシの平均寄生果率は1.6%（平成寄生なし）と平成より多かった。地域別では、同様に東部で0.1%、中部で2.1%、西部で2.5%と、特に中西部での発生が多かった（表1）。
- （2）同様に、令和7年7月及び8月の巡回調査では、ルビーロウムシの平均寄生果率は、0.2%（平成0.06%）及び0.3%（平成0.2%）と、それぞれ平成より多かった（表2）。
- （3）県病虫害防除所による近年の温州みかん巡回調査では、各種カイガラムシの発生が平成より多い状況が続いている（データ略）。例えば、令和6年にはヤノネカイガラムシ（5～6月、8月）及びルビーロウムシ（8～9月）、令和5年にはイセリヤカイガラムシ（3～4月）及びルビーロウムシ（3月）、令和4年にはイセリヤカイガラムシ（8～9月）及びルビーロウムシ（9月）の発生がそれぞれ平成より多かった。
- （4）近年、マルカイガラムシ類（アカマルカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ）の発生が増加しているとの報告が、東部や西部地域の病虫害防除員から寄せられている。

4 防除方法

- （1）剪定によりカイガラムシ類の寄生枝を除去するとともに、散布薬剤が届きやすい樹体に仕立てる。
- （2）発生園では、越冬成虫に対する冬季のマシン油乳剤散布を徹底し、初期密度を下げる。
- （3）カイガラムシ類幼虫に対する薬剤散布は、発育ステージが比較的そろっている第1世代の防除適期に実施する。なお、第1世代幼虫の防除適期は、カイガラムシ類の発生種により異なるため注意する。

- (4) カイガラムシ類（第1世代幼虫）に対する防除適期
- 1) マルカイガラムシ類（アカマルカイガラムシを除く） 6月上中旬
 - 2) アカマルカイガラムシ 6月下旬～7月上旬
 - 3) ヤノネカイガラムシ 6月中下旬
 - 4) イセリヤカイガラムシ 6月上中旬
 - 5) ロウムシ類 7月上中旬
 - 6) コナカイガラムシ類 6月上中旬
- (5) 不明な点については、病虫害防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

表1 温州みかんにおけるナシマルカイガラムシの寄生状況

		地域 ^a			
		東部	中部	西部	県全域
平均寄生果率%	本年	0.1	2.1	2.5	1.6
	平年 ^b	0	0	0	0
平均発生面積率%	本年	10.0	20.0	50.0	26.7
	平年	0	0	0	0

a) 各地域の数値は、10園地の平均値。県全域は全30園地の平均値。

b) 過去10年(2015年～2024年)の平均値。

表2 温州みかんにおけるルビーロウムシの寄生状況

		地域 ^a				
		東部	中部	西部	県全域	
7月	平均寄生果率%	本年	0.7	0	0	0.2
		平年 ^b	0.1	0	0	0.06
7月	平均発生面積率%	本年	22.2	0	0	6.9
		平年	7.0	2.0	0	3.0
8月	平均寄生果率%	本年	1.0	0	0	0.3
		平年 ^b	0.3	0.2	0	0.2
8月	平均発生面積率%	本年	20.0	0	0	6.7
		平年	11.1	6.2	1.0	6.0

a) 各地域の数値は、10園地の平均値。県全域は全30園地の平均値。

b) 過去10年(2015年～2024年)の平均値。



図1 果実に寄生するナシマルカイガラムシ
(濃緑色部の点々)



図2 果実に寄生するアカマルカイガラムシ
(赤褐色部の点々)



図3 葉に寄生するヤノネカイガラムシ



図4 枝に寄生するイセリヤカイガラムシ
(白色)



図5 枝に寄生するルビーロウムシ
(アズキ色)



図6 葉に寄生するコナカイガラムシ類
(白色)

【問合せ先】 静岡県病虫害防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

